



男性育休取得者の座談会

当社は、仕事と育児を両立しながら安心して働くことができる環境づくりを推進しています。育休取得者5名に集ってもらい、取得時の状況やその後の働き方などについて話を伺いました。



K. S (2015年度入社)
営業職 (環境エネルギー)



Y. M (2015年度入社)
事務職 (経営企画)



T. S (2007年度入社)
技術職 (鉄道・信号工事)



K. U (2008年度入社)
技術職 (鉄道・信号工事)



S. I (2009年度入社)
技術職 (情報通信・インフラ工事)

■ 育休を取得したきっかけ

「出産・育児を妻だけの負担にしないように」

K. S：うちは妻が里帰り出産はしないと決めていました。そのため、出産後の妻がひとりで子どもの世話をするのはしんどいだろう、少しでも妻の力になればと考え、育休を取ることを決めました。

K. U：私は1人目が生まれた時はほぼ妻に任せてしまったのですが、妻のストレスがかなり溜まっていた。そこで2人目の時は妻と相談して、育休を取れるなら取って欲しいと言われたので、取得を決めました。妻は帝王切開のため入院をしたので、上の子どもの面倒を見るために、生まれる1週間前から育休を取りました。出産の1週間前は絶対にバタバタするので、上の子がいなかったとしても、妻をフォローするために育休が必要だと思いました。

「上の子どもに寂しい思いをさせないように」

T. S：僕のところは、上の子に手がかかるんです。出産後、妻は下の子どもにほぼ付きっきりになるだろうと考え、育休を取得することにしました。実際に、上の子はママをとられてしまったという行きどころのない気持ちがありましたね。そんな時は、僕が外に連れ出してあげていました。

Y. M：うちも、年子で育児が大変になると考えて育休を取ったのですが、やっぱり上の子が「ママとじゃないとイヤ！」っていう感じで。僕も上の子を公園に連れて行こうとすると、初めは嫌がられました（笑）。

T. S：最初は、パパは嫌われるんですよね。でも、最後は「しょうがない」って（笑）。

育休を取る前は、上の子はママばかりだったんですけど、少しずつ一緒に遊ぶ時間が増えて、今はパパがいないと寂しいと思ってもらえるようになりました。家に帰ると「外に遊びにいきたい」と言ってもらえるようになって、上の子との関係性は良くなりましたね。



「積立年休を使えるようになったことが決め手」

S. I：私はちょうど育休を検討しているときに、積立年休（※）が育児目的で使えるようになるよという説明会をやっている時期でした。本当は育休を2〜3ヶ月取りたかったのですが、国の手当（育児休業給付金等）だけだと給与の約2／3が補償されるだけですよね。出産後はお金もいろいろとかかってくるので、働かないと厳しい。そこで会社で新しく始まった、積立年休の育児目的の制度であれば有給になるので、そちらを使わせてもらおうと思いました。



K. S：確かに、収入の面が厳しいから育休をとれないという話も聞きますよね。私も積立年休を活用しましたが、1ヶ月でも会社の制度を利用し有給で休めるのは有難いなと感じました。

S. I：そうですね。積立年休の育児目的の制度ができて、本当によかったなって思いますね。

※積立年休…失効する年次有給休暇の積立制度。育児の他に介護、私傷病の療養等で使用できる。

■育休を取得するにあたっての周囲のフォローは

「半年くらい前から職場に相談」「取りやすい雰囲気だった」

K. S：職場には半年くらい前から、この時期に育休を取ると伝えていました。周囲も業務を調整してくれていたもので、育休には入りやすかったです。

当時、営業職では育休を取得している人があまりいなかったようだったので、最初は遠慮がちに同じ部署の同僚や上司に相談したのですが、上司から会社が育休の取得を推奨しているという話をしてもらったり、さらに他の



部署の皆さんからも「ぜひ、取ったほうがいいよ」と言ってもらえたり、皆さんに後押しと雰囲気づくりをしていただきました。

K. U：私も半年前に上司に「この時期、育休取ります」と相談したのですが、その前のグループ会議で「育休取得を推奨します」と言っていたこともあって、上司もすぐに「わかった」と言ってくれて。職場では好意的にとらえてくれていたと思うので、よかったと思います。

「育休中も気にしてくれたことが嬉しかった」

K. S：育休を取っている間にちょっと嬉しかったのは、Teamsで「元気？」「育休の生活ってどう？」って、メッセージをもらったときです。返事をしていたら、長文になっちゃって（笑）。そうやって気に

してくれているのは、嬉しかったです。

■育休を取って良かったと思う理由は

「妻を支えることができた」

K. S：うちは里帰り出産をしなかったなので、自分が育休をとらなければ、妻が出産直後から昼間はワンオペ育児になる状況だったのですが、妻から「もし育休を取ってくれずに自分ひとりだけで育児をしていたら、ノイローゼになっていた」と真剣に言われたことが心に残っています。



育休を取ってみて、想像以上に母親は産後思うように体を動かさないこと、体力回復に努めなければならぬ状況でありながら、とても体力が必要な期間なのだとわかりました。家族の助けが一番必要な時に、妻と子どもの近くに居られてよかったと思いました。

S. I：昔は子どもが生まれてすぐは実家を頼ることができて、両親が育児をサポートしてくれていたのかもしれませんが、今の時代は様々な事情で実家等を頼ることができない人が増えていると思います。家庭環境が昔とはだいぶ変わっていますから。妻の負担を軽くするためには、夫が育休を取ることが求められる時代なのだと思いますね。

「子どもの成長を見ることができた」

K. U：私は、子どもの見たことがない姿とか、子どもの成長を感じることができて、本当によかったなと思いました。24時間子どもと一緒にいるということがなかったので。ずっとこういうふうにできたらいいのなと思いました。復職してからは1日2～3時間しか一緒にいられないので、寂しいという気持ちがあります。



S. I：子どもは1日ごとに確実に成長しているんですね。寝返りができたり、物をつかめるようになったり。もうそろそろ立ちそうだな、とか。そういうのを見ていて楽しかったですし、それを見逃したら人生ちょっと損していますよね。自分自身もおむつを交換したり、ミルクをあげたり、子どもの世話をしながら父親として「この子の父親なんだ」という自覚ができたことがよかったです。妻と子どもと、家族3人の時間を作っていく、とてもよい期間だったと思います。

「人生の節目、自分自身を振り返る時間になった」

K. S：育休はこれから家族3人での暮らしが始まるという節目になったような気がします。育休を取ったことで「よし、これから頑張るぞ！」って思えました。

K. U：育休の2ヶ月間は、まとまった期間一時的に仕事から離れたことで、リフレッシュにもなりましたね。育休明けは仕事に熱くなっていました。「やるぞ！」って（笑）。

Y. M：僕も、今後働いていくうえでこんなに長い期間仕事を離れることは無いだろうと思ったので、子どものことだけでなく、仕事について、将来のことについてなど、ゆっくり考える時間になったのかなと思います。自分についても振り返る時間になったと思いますね。



■ 育休取得後の働き方に変化は

「子どもとの時間を増やしたい」「業務の効率アップを意識」

T. S：育休を取得する前は残業する頻度が多かったのですが、今はいかに早く帰って子どもと接する時間を増やせるかを考えるようになりました。どうしても早く帰れない日には、翌日以降の業務の段取りまで済ませてしまうなど、効率良くメリハリをつけて働くことを意識するようになりました。

S. I：私も育休取得をきっかけに、仕事と家庭との両立をどうやって成立させるかを考えるようになりました。職場とも相談しながら、自分でも業務の効率を上げて時間を作れるように工夫しています。これからは子どもの成長を見ていくためにも、妻だけに家事や育児を任せるのではなく、協力してやっていきたいと思っています。

